2. 連立1次方程式

教科書P.20

本章のねらい

- 階段行列の理解とその求め方である掃き出し法を身につける
- 逆行列,連立1次方程式の解法である掃き出し法を身につける
- 階数と解の存在条件の関係を理解する

連立1次方程式をどうやって解くか?

- つるかめ算
- 2元1次方程式(変形して代入する)
- 逆行列

例1:2元連立1次方程式

$$\begin{cases} 2x_1 + 3x_2 = 8 \\ x_1 + 2x_2 = 5 \end{cases}$$

$$x_1 = -2x_2 + 5$$
 を第1式に代入

$$2(-2x_2 + 5) + 3x_2 = 8 \longrightarrow -x_2 = -2 \quad \therefore x_2 = 2$$

$$\therefore x_1 = -2 * 2 + 5 = 1$$

例2:2元連立1次方程式

$$\begin{cases} 2x_1 + 3x_2 = 8 \\ x_1 + 2x_2 = 5 \end{cases} \longrightarrow \begin{bmatrix} 2 & 3 \\ 1 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 8 \\ 5 \end{bmatrix} \longrightarrow A\mathbf{x} = \mathbf{b}$$

$$A = \begin{vmatrix} 2 & 3 \\ 1 & 2 \end{vmatrix}$$
 の逆行列を求める.

$$\begin{bmatrix} a & b \\ c & d \end{bmatrix}^{-1} = \frac{1}{ad - bc} \begin{bmatrix} d & -b \\ -c & a \end{bmatrix} だから (正則を仮定)$$

$$A^{-1} = \begin{bmatrix} 2 & 3 \\ 1 & 2 \end{bmatrix}^{-1} = \begin{bmatrix} 2 & -3 \\ -1 & 2 \end{bmatrix} \longrightarrow \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} = A^{-1}\mathbf{b} = \begin{bmatrix} 2 & -3 \\ -1 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 8 \\ 5 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}$$

ではn元連立1次方程式をどうやって解くか?

$$\begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & a_{22} & \cdots & a_{12n} \\ \vdots & \vdots & & \vdots \\ a_{m1} & a_{m2} & \cdots & a_{mn} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} b_1 \\ b_2 \\ \vdots \\ b_m \end{bmatrix}$$

基本行列1と基本変形(1)

基本行列1

第i列

$$P_{i}(c) = \begin{bmatrix} 1 & \vdots & & & & & \\ & \ddots & \vdots & & & & \\ & & 1 & \vdots & & & \\ & & c & \cdots & \cdots & \cdots & \\ & & \vdots & 1 & & \\ & & O & \vdots & & \ddots & \\ & & \vdots & & & 1 \end{bmatrix}$$

 $P_i(c)$ は、単位行列で、(i,i)成分をc($\neq 0$)に変えたもの

- ・正則である
- ・逆行列は $P_i(c^{-1})$
- 左からAに乗ずる($P_i(c)A$) とAの第i行をc(\neq 0)倍した 行列になる
- 右からAに乗ずる $(AP_i(c))$ とAの第i列を $c(\neq 0)$ 倍した行列になる

左から基本行列をかけることを「行基本動作」 右から基本行列をかけることを「列基本動作」

基本行列1と基本変形(2)

第i列

基本行列2と基本変形(1)

基本行列 2

第i列

 $P_{ij}(c)$ は、単位行列で、(i,j) $(i \neq j)$ 成分をc $(\neq 0)$ に変えたもの

- ・正則である
- ・逆行列は*P_{ii}*(- *c*)
- 左からAに乗ずる($P_{ij}(c)A$) とAの第i行に第j行をc倍し たものを足した行列になる
- 右からAに乗ずる($AP_{ij}(c)$)とAの第i列に第j列をc倍したものを足した行列になる

基本行列2と基本変形(2)

$$AP_{i}(c) = \begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & a_{22} & & & \\ & & \ddots & & \\ a_{m1} & a_{m2} & \cdots & a_{mn} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & & & \vdots & & \\ & \ddots & & \vdots & & \\ & & \ddots & \vdots & & \\ & & & 1 & & \\ & & & & \ddots & \\ & & & & 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a_{11} & \cdots & a_{1i} + ca_{1j} & \cdots & a_{1n} \\ \vdots & \ddots & & \vdots & & \vdots \\ & & & a_{ii} + ca_{ij} & & \\ \vdots & & & \vdots & & \ddots & \\ & & & & \vdots & & \\ a_{m1} & \cdots & a_{mi} + ca_{mj} & \cdots & a_{mn} \end{bmatrix}$$

第i列+第i列×c

基本行列3と基本変形(1)

基本行列 3 第i列 \Rightarrow 第j列

 P_{ij} は,単位行列で,第i列と第j列を交換したもの

- ・正則である
- ・逆行列は P_{ij} -1= P_{ij}

第i行



第*j*行

- 左からAに乗ずる($P_{ij}A$) とAの第i行と第j行を交換 した行列になる
- 右からAに乗ずる(AP_{ij})とAの第i列と第j列を交換した行列になる

基本行列3と基本変形(2)

第*i*列 第*j*列 第*j*列 第*j*列 第*j*列 第*j*列 第*j*行 第*j*行 第*i*刊 第*i*

行基本操作

- 1. 第<math>i行をc倍する
- 2.第i行に第j行のc倍を加える
- 3. 第i行と第j行を入れ替える

列基本操作も同様に行うことができる

階段行列とは(1)

- • $m \times n$ の行列Bが次の3つの条件を満たすとき階段行列という
- 1. ある $k(1 \le k \le m)$ に対して,Bの第1行目から第k行目まではいずれも零ベクトルでなく,残りの(m-k)個の行は全て零ベクトル
- 2. 第i行(i = 1,2,...,k)の成分を左から順に見ていくと,0でない最初の成分は1であり,この1が第 q_i 列にあるとすれば

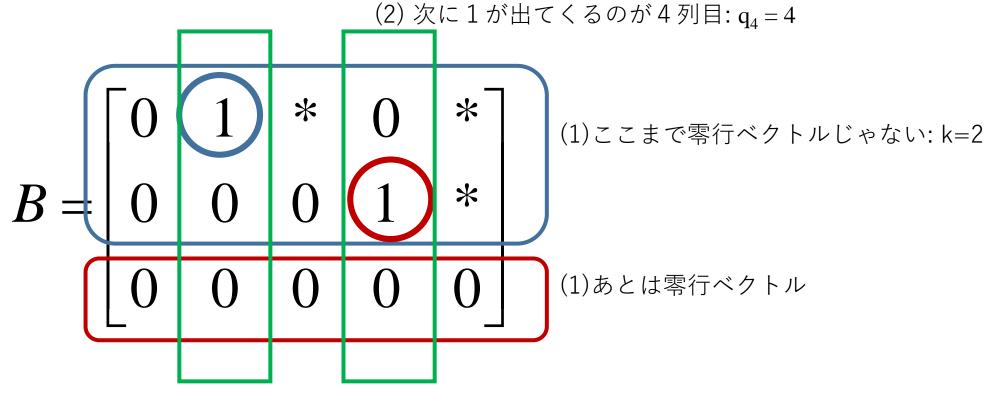
$$q_1 < q_2 < \dots < q_k$$

3. 第 q_i 列(i = 1, 2, ..., k)はm次元基本ベクトル e_i

階段行列とは

• m×nの行列Bについて(k=2, q_1 =2, q_2 =4の例)

(2) 1 が出てくるのが 2 列目: $q_1 = 2$



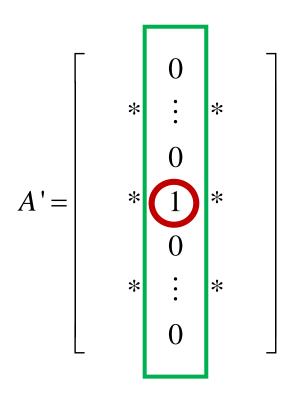
(3) 1が出てくる列が基本ベクトル

階段行列への変形

• 行基本変形を繰り返すと階段行列Bに変形できる

$$P_n P_{n-1} \cdots P_1 A = PA = B$$

掃き出し



ある列の成分をもとにして、 行基本操作2によって同じ 列の他の成分を0にする

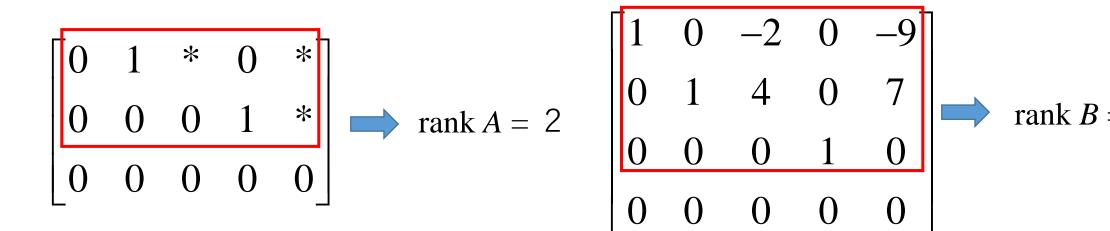
• 教科書では1つの列のある成分を α として掃き出すとしているが、一般的にはまずその成分を1にしてから他の成分を掃き出す

階段行列の一意性

・任意の行列Aは、行基本操作の使い方に関係なく、ただ一つの階段行列Bをもつ

階数 (ランク, rank)

•行列Aの階段行列をBとするとき,Bの階段の数(すなわち零ベクトルでない行の個数)kを行列Aの階数とよび, $ank\ A=k$ で表す



p.27 例題3

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 1 & 0 & -2 & -1 \\ 5 & -1 & -2 & 6 & -8 \\ 1 & 4 & 2 & 3 & 5 \\ -1 & 3 & 2 & 0 & 6 \end{bmatrix}$$
 の階数を求めよ。

• ポイント: 行列の階数=階段行列の零ベクトルでない行の個数

• 解答:rank *A* = 3

正則性と階段行列

Aがn次の正方行列のとき、次の3つは同値である

- 1. Aは正則
- 2. rank A = n
- 3.Aの階段行列は単位行列 I_n

逆行列の計算

- 行列Aの逆行列A-1の求め方
- 1. 行列[*A*, *I_n*]を作る
- 2. 行基本操作を繰り返して、Aが I_n となるようにする
- 3. $[I_n, A^{-1}]$ となるので、 A^{-1} が求まる.

p.28 例題 4

$$A = \begin{bmatrix} 2 & 5 & 0 \\ 3 & 3 & 8 \\ 1 & 2 & 1 \end{bmatrix}$$
 の逆行列を求めよ。

- ポイント: [A, I]を作り, [I, A-1]を求める
- 解答:

$$A^{-1} = \begin{bmatrix} 13 & 5 & -40 \\ -5 & -2 & 16 \\ -3 & -1 & 9 \end{bmatrix}$$

連立1次方程式の解法(1)

$$\begin{cases} a_{11}x_1 + a_{12}x_2 + \dots + a_{1n}x_n = b_1 \\ a_{21}x_1 + a_{22}x_2 + \dots + a_{2n}x_n = b_2 \\ \vdots \\ a_{m1}x_1 + a_{m2}x_2 + \dots + a_{mn}x_n = b_m \end{cases} A\mathbf{x} = \mathbf{b}$$

係数行列
$$A = \begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} \\ a_{21} & \ddots & & \vdots \\ \vdots & & & & a_{mn} \end{bmatrix} \quad \mathbf{x} = \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix} \quad \mathbf{b} = \begin{bmatrix} b_1 \\ b_2 \\ \vdots \\ b_m \end{bmatrix}$$

連立1次方程式の解法(2)

• 拡大係数行列を作る

$$[A, \mathbf{b}] = \begin{bmatrix} a_{11} & a_{12} & \cdots & a_{1n} & b_1 \\ a_{21} & \ddots & & b_2 \\ \vdots & & \vdots & \vdots \\ a_{m1} & \cdots & a_{mn} & b_m \end{bmatrix}$$

• 階段行列Bに変形する(掃き出し法)

$$[A, \mathbf{b}] = [B, \tilde{\mathbf{b}}]$$

Aが正則である場合, Bは単位行列になる

同次(斉次)連立1次方程式

•右辺のベクトルbが0の場合を同次連立1次方程式という

$$A\mathbf{x} = \mathbf{0}$$

- •x=0は常にこの方程式の解である. これを自明な解と呼ぶ.
- $\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, ..., \mathbf{x}_k$ が同次方程式 $A\mathbf{x}=\mathbf{0}$ の解であるならば,それらの線形結合 $\alpha_1\mathbf{x}_1+\alpha_2\mathbf{x}_2+\cdots+\alpha_k\mathbf{x}_k$ も明らかに $A\mathbf{x}=\mathbf{0}$ の解である
- rank A = 未知数の個数 ⇒ 自明な解のみ
- rank A ≠ 未知数の個数 ⇒ 無数の解
 (任意定数の個数) = (未知数の個数) rank A

解の存在条件

• 連立1次方程式Ax = bが解をもつための必要十分条件は

$$\operatorname{rank}[A, \mathbf{b}] = \operatorname{rank} A$$

が成り立つことである.

方程式の解と係数行列の階数の関係(1)

N個の未知数を含む連立1次方程式Ax=bが解をもつとする

- 1. A**x**=**b**がただ1つの解をもつ ⇔ rank A = n
- 2. Ax=bが無限に多くの解をもつ \Leftrightarrow rank A < n

方程式の解と係数行列の階数の関係(2)

連立 1 次方程式 Ax = b の解は

- 1. rank[A, b] = rank A = 未知数の個数⇒ただ一つの解
- 2. rank[A, b] = rank A < 未知数の個数⇒無数の解

(任意定数の個数)=(未知数の個数)- rank A

p.29 例題 5

$$\begin{cases} x + y - z = 5 \\ x - 2y + 2z = 2 & を解け。 \\ 2x - y + 2z = -1 \end{cases}$$

- ポイント: [A, b]を作り、[I, x]を求める
- 解を求めたら、代入して確かめよう!
- 解答:

$$\begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 4 \\ -7 \\ -8 \end{bmatrix}$$

p.30 例題 6

$$\begin{cases} x+3y+8z = -9\\ 3x+5y+2z = -1 & を解け。\\ x+y-3z = 4 \end{cases}$$

- 解を求めたら、代入して確かめよう!
- 解答:

$$\begin{bmatrix} x \\ y \\ z \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \frac{21}{2} + \frac{17}{2}c \\ -\frac{13}{2} - \frac{11}{2}c \\ c \end{bmatrix}$$

• cは任意定数

p.31 例題 7

$$\begin{cases} 2x - y + z = 3\\ x - 2y + 5z = 0 \end{cases}$$
を解け。
$$3x + 2y - 9z = 4$$

$$A = \begin{bmatrix} 2 & -1 & 1 \\ 1 & -2 & 5 \\ 3 & 2 & -9 \end{bmatrix} \qquad b = \begin{bmatrix} 3 \\ 0 \\ 4 \end{bmatrix} \qquad とすると,$$

$$rank[A, b] = 3$$

$$rank A = 2$$

 $rank[A, b] \neq rank A$ なので、解をもたない

p.32 例題8

$$\begin{cases} x + 2y + 3z + 4w = 0 \\ 2x - y + z - 2w = 0 \end{cases}$$
 を解け。
$$8x + y + 9z + 2w = 0$$

• 解答:

$$\begin{bmatrix} x \\ y \\ z \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -a \\ -a - 2b \\ a \\ b \end{bmatrix}$$

• *a*, *b*は任意定数

p.33 例題9

$$\begin{cases} -x+3y+2z=a+1\\ 2x+y=2 & \text{が解をもつように,} aの値を定めよ。\\ 4x+9y+4z=-a \end{cases}$$

• 解答:

rank[A, b] = rank A を満たすように決定する

$$a = -\frac{8}{3}$$